

**キーワード：関心変容、教育実習生、健康課題**

## 1、はじめに

学校保健が取り扱うべき児童の健康問題は多様化・深刻化しており、その対応にあたっては養護教諭はもちろん、教職員全員が共通理解をはかり、学校保健を学校組織全体で取り組んでいく必要がある。現在、学校保健に関する知識や指導方法を学ぶ機会の必要性が指摘されているが、教員養成段階では、学校保健に関する内容を学ぶ機会はないに等しい。そのため、教員を志望する学生の多くは、子どもの心身の健康問題への関心や学校保健への認識がなされにくい状況にある。

そこで、本研究では全学生が必修である教育実習に焦点を当て、学校保健に関する学習が不十分である学生が、どのように子どもの健康課題に対応しているかを明らかにし、関心変容の過程を検討することを目的とした。

## 2、方法

教育大学である G 大学の小学校教員養成過程を専攻している学生 11 名を対象とし、2013 年 7 月から 8 月にかけてインタビュー調査を行った。インタビュー内容は、実習校の実態や実習内容、担当クラスの児童との関わりについての体験、指導教員に対するイメージや指導教員から受けた指導内容、学校保健に関わる先行知識などである。次に、学校保健領域への関心の変容という現象を生成した概念を相互に関連付けてプロセスを描き、説明を行った。用いた研究方法は、この目的に適した修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ法(Modified Grounded Theory Approach 法)である。

## 3、結果と考察

本研究では、実習生のインタビュー・データを分析し、教育実習における経験と児童の健康への関心に関する要素を抽出し、19 の概念を生成した。さらに、その 19 の概念を 3 つのカテゴリーと 8 つのサブカテゴリーを抽出し、相互に関連付けて関心変容のプロセスを描き、説明を行った。

分析の結果、教育実習生は<健康課題を抱える児童との遭遇><健康課題への問題意識の芽生え><健康課題を抱える児童の対応への困難感><健康課題への関心の変容>というプロセスを踏み、児童の健康への関心変容が起こっていることが明らかになった。また、関心が高まっている実習生とそうではない実習生がいることが明らかになったことから、そのことを規定する要因を検討した。教育実習生の先行知識が豊富であることや、担任の指導観などという<教育実習中の経験に關与する条件>が、児童の健康課題に関する対応について学ぶ機会ができる等の<教育実習中の経験>に影響し、関心変容につながるということが明らかになった。以上のことから、教育実習中の体験を充実させるため、学校保健の体系的な学習の機会を確保し、先行知識を習得することや、実習生を指導する現職教員の指導内容や指導方法の検討を行う必要性が示唆された。

## 4、結論

教育実習は学生にとって健康課題を抱える児童への対応について学ぶ経験となっていた。そして、その学びの経験によって、実習生の児童の健康への関心変容が起きていた。また、児童の健康への関心の変容には、実習生のレディネスの程度や心身の余裕さといった実習生自身の要因と、実習校の児童の実態や実習生に対する指導方針、実習生を指導する指導教員や養護教諭の指導観といった、実習校の要因が影響していることが明らかになった。